2019 年 3 月
JETRO ドバイ

ドバイ首長国の概況とビジネス機会

０．はじめにーUAE の「ドバイ首長国」

アラブ首長国連邦（UAE）は、7 つの首長国からなる連邦国家である。その構成を概観すると、首長が連邦大統領を兼ね、UAE 全体国土の 8 割、GDP の約 7 割、人口の 3 割（自国民では 4 割強）、原油生産の 9 割を占める**アブダビ首長国**が大きな地位を有する。次いで**ドバイ首長国**の地位が高く、首長が連邦副大統領と首相を兼ね、GDP の 3 割・人口の 3 割を占めている。その他 5 つの首長国は**「北部首長国」**と総称され、あわせて残りの GDP の 1 割、人口の 3 割弱を構成している。

表①：UAE における首長国別の経済・人口規模

首長国名	首長家	面積	名目 GDP（十億 USD）	人口（万人）	自国民人口（万人）
アブダビ	ナヒヤーン家	67,340 ㎢	262 (2014)	291 (2016)	40 (2010)
ドバイ	マクトゥーム家	3,885 ㎢	92 (2014)	270 (2016)	17 (2010)
シャルジャ	カーシミー家	2,590 ㎢	31 (2014)	141 (2015)	15 (2010)
アジュマン	ヌアイミー家	259 ㎢	4 (2013)	50 (2017)	4 (2010)
ラス・アル・ハイマ	カーシミー家	1,684 ㎢	4 (2009)	35 (2015)	10 (2010)
フジャイラ	シャルキー家	1,580 ㎢	3 (2009)	23 (2016)	6 (2010)
ウンム・アル・カイワイン	ムアッラー家	720 ㎢	0.6 (2009)	5 (2005)	2 (2010)
UAE 全体	―	83,600 ㎢	385(2014)	1043(2018)	95(2010)

出所： The Official Portal of the UAE Government、IMF 等より作成

注）各項目の数値の後のカッコは該当年を示す。UAE 政府の公表する統計は速報性に乏しく、現在、出所ウェブサイトで確認できる最新値を記載

また、UAE 全体における日本企業の進出状況は、2017 年 5 月時点でジェトロ・ドバイ事務所が実施した推計によると、合計 442 事業所となっている。内訳は、ドバイが最も集中しており 345 事業所(78%)、アブダビが主に石油・ガス関連や銀行・商社等の企業を中心に 73 事業所(16%)が立地しており、北部首長国は合計で 24 事業所(5%)にとどまっている状況である。

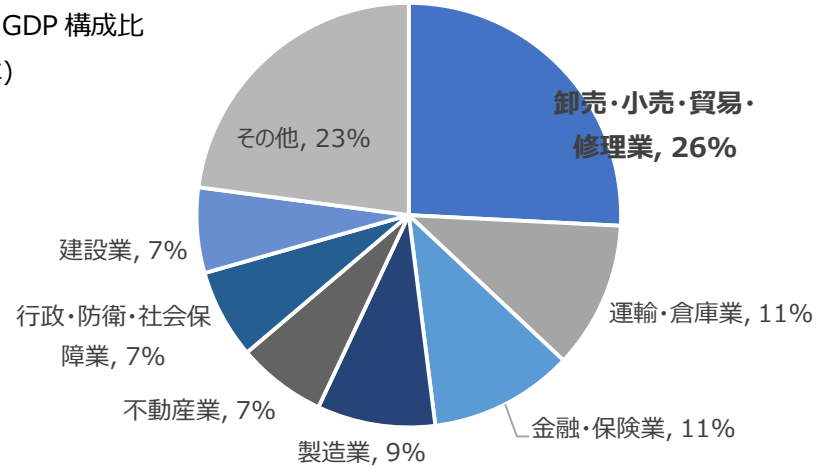
UAE では、トップの GDP と政府系企業を多く有するアブダビ、ハブ機能を強化するドバイ、両都市と比較して投資コストが低廉で各種インフラを整備しつつある北部首長国と、各首長国において産業構造や政策が異なり、それぞれ特色のあるビジネス機会が存在する。本稿では首長国ごとにシリーズ解説するなかの一環として、**「ドバイ首長国」**に焦点を当てる。

Copyright © 2019 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

1. ドバイ首長国の特徴―産業構造・経済動向

ドバイは、面積、人口、GDP ともにアブダビに次いで UAE で 2 番手の首長国であるものの、UAE 経済の中心地ともいえるグローバル都市である。人口に占める自国民の割合が全首長国で最も少なく、外国籍居住者が大半を占めていることに加え、ドバイだけで年間約 1,600 万人（2017 年：宿泊を伴う海外からの来訪者数）の観光客が訪れる世界有数の観光消費地となっている。ドバイの GDP 構成をみると、最も高いのが卸売・小売・貿易等となっていることからも商業活動の活発さが伺えよう。ドバイには日系企業も含む多くの外国企業が進出をしており、様々な商品を消費意欲の旺盛なドバイの市場に展開している。加えて、GDP 構成比が次に高い産業が運輸・倉庫業であることに現れているように、ドバイは地域の物流ハブとしての機能を有している。多くの企業が UAE/ドバイ内をターゲットとして商売を行っているのに加え、その他中東地域やアフリカといった市場への再輸出の拠点としてドバイを活用しており、ドバイの空港・港湾・倉庫といった物流機能は世界各地のメーカーを支える重要な役割を担っている。

図：ドバイ首長国の GDP 構成比
（2017 年）



出所：Dubai Statistics Centre

ドバイは元来の石油埋蔵量の少なさにより、建国後早い段階から石油依存型経済からの脱却を志向せざるを得なかった。1980 年代の半ば頃から経済政策として産業多角化に舵を切り、中東における一大ハブとなるべく、特にインフラの整備に力を入れてきた。1985 年には中東最大の港湾であるジュベル・アリ港の整備とあわせて、ドバイで最初のフリーゾーンであるジュベル・アリ・フリーゾーン（JAFZ、Jebel Ali Freezone）を設立。外国企業や資本の進出を促進するため、外資の直接投資の自由や外国人労働者の雇用の自由を完全に保障する経済特区として整備した。その後ドバイ政府は、後述の通り各種産業特化型のフリーゾーンをドバイ市内各地に設置し、企業誘致を加速。現在ドバイは中東における一大流通拠点としての地位を獲得したほか、中東の金融センターとしても位置づけられ、世界中の主要な金融機関が拠点を構えている。2017 年のドバイにおける鉱業の GDP 構成比はわずか 1%となり、上記 GDP 構成にみられる通り多様な産業の展開に成功している。

Copyright © 2019 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

ドバイ政府は 2021 年の UAE 建国 50 周年を見据え、世界のハブとしての機能を拡充させる様々な開発計画を進行している。2014 年には国家目標"ドバイ・プラン 2021"、2017 年には"スマート・ドバイ 2021"をそれぞれ発表、ドバイを世界一スマートな都市、ヒト・モノ・カネのみならずイノベーションのハブとして確立すべき機能拡充が図られている。目下、そのマイルストーンとして準備が進められているのが、2020 年 10 月 20 日から翌年 4 月 10 日にかけ、「Connecting Minds, Creating the future（心をつなぎ、未来をつくる）」をテーマとして開催される "MEASA（中東・アフリカ・南アジア）初"の国際博覧会、ドバイ万博である。同万博では"オポチュニティ"、"モビリティ"、"サステナビリティ"の 3 つのサブテーマが設定されており、200 以上の参加各国・機関が同テーマのもと自国の取り組みや将来像をアピールする。ドバイ万博公社によると、会期中に 2,500 万人、そのうちの 7 割を海外からの来場者と見込んでおり、前回 2010 年のミラノ万博（約 2,200 万人）を上回る規模となっている。

2. ドバイ首長国のビジネス環境

執筆時点で UAE には外資規制があり、外資が過半数以上を出資するかたちでの進出はフリーゾーンに概ね限られる。ドバイには数多くのフリーゾーンが存在するが、幅広い商品分野の貿易・卸売活動のために必要となるトレード・ライセンスの取得が可能であるのは、主に港湾型の JAFZ、空港型のドバイ・エアポート・フリーゾーン（DAFZ）、ドバイ・サウス・フリーゾーン、ドバイ・マルチ・コモディティ・センター（DMCC、Dubai Multi Commodity Centre）の 4 つとなっている。JAFZ はジュベル・アリの港湾、DAFZ はドバイ国際空港、ドバイ・サウスはドバイの南部に建設されている新空港の敷地内にあり、それぞれの物流インフラを活用することが可能である。以下に、各フリーゾーンの概要を記載する。

表② トレード・ライセンスが取得可能なフリーゾーン

名称	特徴・主な操業企業
ジュベル・アリ・フリーゾーン（JAFZ、Jebel Ali Freezone）	● UAE 初のフリーゾーンで、現在は 7,100 社以上の多様な業種の企業が入所。ジュベル・アリ港（コンテナ取扱量が世界で 7 番目の貿易港）とアル・マクトゥーム港に隣接。 ● 日系では、パナソニック、TOTO、日産自動車、三菱自動車、いすゞ、ブラザー工業、カシオ、日立建機、コマツ、クボタ、新日鉄住金、住友商事、JX、ニコン、日本郵船、パイオニア、シャープ、島津製作所、ソニー、東芝、ブリヂストン、シチズン、デンソー、マキタ等が入居（順不同）。
ドバイ・エアポート・フリーゾーン（DAFZ、Dubai Airport Freezone）	● ドバイ国際空港に隣接しており、東西にオフィス棟が分かれている大規模なフリーゾーン。保税区域には倉庫付きのオフィスエリアも設置されている。 ● 日系大手では、トヨタ自動車、横浜ゴム、ヤクルト本社、NEC、豊田自動織機、川崎重工、三菱重工、豊田通商、リコー、住友電気工業、住友ゴム、テルモ、ヤマハ発動機、パラマウントベッド等が入居している。

Copyright © 2019 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

ドバイ・サウス・フリーゾーン（Dubai South Freezone）	● 面積 145 ㎢。ドバイ南部のアル・マクトゥーム港及びアル・マクトゥーム空港に隣接しており、年間 1,200 万トンの貨物、1 億 6000 万人の旅客者を受け入れ可能な設備が建設される予定となっている。現状では、建設の一部分のみが完了している状況であるが、ドバイ万博の開催地とも隣接しており、今後、開発が加速すると考えられている。 ● 現状、日本企業の進出はまだ少ないが、シーメンスや DHL、サムスンといった外資系大手が拠点を構えている。
ドバイ・マルチ・コモディティ・センター（DMCC、Dubai Multi Commodity Center）	● ドバイでコモディティ・マーケット・プレイスを創設するために作られたフリーゾーンで、主に貿易を行う企業が入居している。商品（コモディティ）はゴールド、ダイアモンド、宝石をはじめエナジー関連商品やコーヒーなども含まれる。他 3 か所のフリーゾーンとは異なり、敷地が港湾や空港に隣接していないため、外部の倉庫事業者を使って在庫を保有することが求められる。 ● DMCC はドバイのフリーゾーンの中でも最も登録企業数が多いフリーゾーンと言われており、個人事業主や小規模事業者も多数登記されている。

(出所：各フリーゾーンおよび各社ウェブサイトより作成)

その他、中古車産業に特化したドバイ・オート・ゾーン(DAZ、Dubai Auto Zone)、クリエイティブな産業の誘致に特化しているデザイン・ディストリクト（D3、Dubai Design District）、貴金属の関係業者が集まるゴールド＆ダイヤモンド・パーク等、産業に特化しているフリーゾーンが約 30 か所存在している。日系企業が進出している主な産業特化型のフリーゾーンは以下の通りである。

表③ ドバイにおける産業特化型のフリーゾーン

名称	特徴・主な操業企業
ドバイ・インターナショナル・フィナンシャル・センター（DIFC、Dubai International Financial Centre）	● UAE の持続的な経済発展を支える金融環境を整備する目的で、銀行業務(投資銀行、プライベート・バンキング、市中銀行)、資本市場、アセットマネジメント、ファンド管理等のセクターの企業が多く入居している。 ● 日系では三菱 UFJ 銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、三菱商事、三井物産等が入居している。
ドバイ・メディア・シティ（Dubai Media City）	● ドバイの国際的な情報発信能力を強化する狙いで設立されたフリーゾーンで、地場だけではなく、ロイター、CNN、BBC、ブルームバーグなどの国際的な放送機関が入居している。 ● 日系では、NHK、日本経済新聞、NTT、KDDI 等が入居している。
ドバイ・ヘルスケアシティ（Dubai Healthcare City）	● 医療サービス、ウェルネス・サービスを提供する企業の為の世界初の医療フリーゾーンであり、「メディカル・コミュニティ」と「ウェルネス・コミュニティ」があり、病院、クリニック、ラグジュアリー・スパ・リゾートなどが入居している。 ● 日系の医療機関として、「さくらクリニック」が入居している。

Copyright © 2019 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

ドバイ・シリコン・オアシス（Dubai Silicon Oasis）	● 産学官の連携を推進し、イノベーション拠点とすることを目的として設立されたフリーゾーンで、ドバイのやや北部の内陸地に立地している。 ● 日系では、三菱電機等が入居している。

（出所：各フリーゾーンおよび各社ウェブサイトより作成）

日系企業については、2017 年のジェトロ調査によると 345 か所の事業所がドバイに立地している。そのうち 8 割以上が各種フリーゾーンに立地しており、進出数が最も多いのが JAFZ（約 140 拠点）で、その多くが商品の卸売、在庫保有、再輸出の拠点として活用している。その他、DAFZ にも駐在員事務所を中心に多くが立地しているほか（約 80 拠点）、大手総合商社や大手都市銀行は DIFC に拠点を有しているケースが多い。先述の通り JAFZ を再輸出の拠点として活用しているケースが多いので、UAE のみならず中東及びアフリカ地域において製品を輸出・販売したいと考えている事業者にとっては、ドバイに拠点を構えるメリットは非常に大きいと考えられる。ドバイに拠点を持つことで、中東・アフリカ地域の在庫をドバイで持ちつつ、他国の代理店の管理を行う、また新たな国において代理店を探索するという業務も、併せて実施することが可能となる。

3. ドバイ首長国のビジネス機会

商業活動が盛んなドバイでは様々な領域にビジネスチャンスを見いだせるであろう。高い購買力を背景に小売市場への参入を図る視点がまず一つである。居住者のみならず、近隣の GCC 諸国をはじめ世界中から観光客・ビジネス客が集まるドバイは、多くの国の人々に商品を認知させるショーケースとしての役割を果たしている点でも魅力的だ。マスターカードの調べによると 2016 年に観光客がドバイで消費した金額は約 3 兆円にも上っており、世界的にみても有数の観光消費都市である。ドバイは世界一の高さを誇る超高層ビル“ブルジュ・ハリーファ”や、世界最大規模のショッピングモールである“ドバイ・モール”、ヤシの木のかたちをした巨大な人口造成島“パーム・ジュメイラ”等に代表される様々な開発プロジェクトで注目を集めてきた。現在でも世界最高層を更新する予定のビルを擁する”ドバイ・クリーク・ハーバー”、パーム・ジュメイラの 3 倍の面積を有する人口造成島“デイラ・アイランド”、競馬場で有名なメイダン地区にドバイ・モールを超える規模のモール等が計画されているドバイ首長の名を冠した都市計画“ムハンマド・ビン・ラーシド・アル・マクトゥーム・シティ(MBR City)“、内陸部の砂漠を埋めるコミュニティ開発の“ドバイ・ランド”、そして将来的なドバイ国際空港に代わるハブ空港としての拡充が進む「アル・マクトゥーム国際空港」やドバイ万博会場を有する”ドバイ・サウス“といった新たな大規模案件が進行し、都市自体の拡大が進んでいる。伴って人口増加も続いており、各施設へのテナント出店・各種サービス等の消費者向けビジネス機会も拡大していくものと考えられる。末尾に現在の消費市場を概観するショッピングモール等の情報をとりまとめているので参照されたい。

政府や政府系企業を顧客としてビジネス参入を図ることも他方の重要な視点である。政府が力を入れている分野の例として、ドバイは「ドバイ・クリーンエネルギー戦略」を立案しており、同戦略において、再生可

Copyright © 2019 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

能エネルギー比率を 2020 年までに 7%、2030 年までに 25%、2050 年までに 75%まで向上させることを目標として設定している。これらの目標を達成するため、ドバイは「ムハンマド・ビン・ラーシド・アル・マクトゥーム・ソーラーパーク(Mohammed bin Rashid Al Maktoum Solar Park)」という単体では世界最大のメガソーラープロジェクトを推進している。このプロジェクトは現状、第 2 フェーズ（213MW）まで完了しており、全 4 フェーズ合計で 1 .7GW の発電規模となる予定である。発電量単価は 2.99 米ドルセント／kwh となる見込みで、価格競争力の高い再生可能エネルギープロジェクトとして、政府が力を入れている案件の一つとなっている。また、最先端の再生可能エネルギーはもちろんのこと、ドバイ政府は今後急増すると予想される電力需要に対して供給力を高めるため、大気汚染物資の排出が少ない石炭火力発電所の建設も行っている。同プロジェクトは「ハッシャン・クリーン・コール・プロジェクト（Hassyan Clean Coal Project）」と呼ばれ、2023 年までに 2.3GW 規模の石炭火力発電所を建設する予定となっている。他、高い生活習慣病罹患率や人口増加に伴う病床数の不足などを背景として医療水準の高度化が図られている点を見据えて医療・ヘルスケア分野、記述の通り政府がイノベーション創出を模索・支援している点からスタートアップ・先進テクノロジー関係など、政府の開発プランから事業機会を探っていくことが可能である。

最後にドバイへのビジネス参入の機会として各種展示会を紹介する。ドバイでは世界規模の展示会が多く開催されており、中東やアフリカ・インド地域をはじめとした外国人バイヤーが数多く訪れる点で、これもドバイがショーケースとしての機能を果たしている所以ともなっている。ドバイにおいて開催される主要展示会の大半がドバイ・ワールド・トレード・センター(DWTC)内のドバイ国際会議・展示場(DICEC)で開催されている。DICEC は国際空港から車で 15 分ほどの場所に位置し、メトロの駅も隣接される等、アクセス環境が良好な場所に位置している。展示面積が約 12 万平米と東京の国際展示場（9.5 万平米）よりも広大で、3 フロアで 21 のホールと、40 以上の会議室が整備されている。ドバイで開催される主要な展示会の概要を以下に記載するので参考にされたい。うちガルフード及びアラブヘルスについては、JETRO がジャパンパビリオンを設置し、日系企業に対して出展スペースを提供している。また、ジャイテックスについても 2018 年はスタートアップ専用エリアである GITEX Future Stars にて JETRO がジャパンパビリオンを設置し、日系企業に出展スペースを提供しているので、こうした機会を活用して展示会に出展することが可能となっている。

表④ ドバイで開催される主要な展示会

名称	概要	参考数値(約)
ジャイテックス (GITEX)	● 毎年 10 月頃に開催されており、情報通信（通信、情報処理、コンピューター等）及び機械・工業技術（先端技術、R&D、産業用機器・設備等）に関する展示会 ● 同時開催で複数の異なる分野の展示も行われており、2018 年は AI、VR、Industry 4.0、ドローン等、幅広い最先端技術／製品が展示されている。	来場者数 - 100,000 人 出展社数 - 4,700 社 (2017 年実績)

Copyright © 2019 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

アラブヘルス (Arab Health)	● 毎年 1 月～2 月にかけ開催されている、医療・病院用機器、医療技術、ヘルスケア、保険用品、医薬品、製薬・製剤、薬学、福祉・介護、リハビリ用機器、用具等の展示会 ● 企業ごとのブースが設置され、小規模なデモ機等の展示も行われている他、各国が自国のパビリオンを設置し、自国の製品を展示するスペースも設けられている。	来場者数 - 97,000 人 出展社数 - 4,700 社 (2017 年実績)
ガルフード (Gulfood)	● 毎年 2 月～3 月にかけて開催されている、農林水産・食品(食・飲料、農林水産物、食品加工)や関連サービス(ホテル、レストラン、ケータリング)を対象とした展示会。 ● 企業ごとのブースの他、各国がパビリオンを設置し、自国の製品を展示するスペースや、肉類、魚類といった食品の種類で分かれている展示スペースも併設している。	来場者数 - 97,000 人 出展社数 - 5,000 社 (2018 年実績)
ビッグ 5 (Big5)	● 毎年 11 月頃に開催されており、特に MEP(機械、電気、配管)サービス、建築インテリア、建築設計、特殊建築、建材、建機・ツール、建設技術等に特化している展示会。	来場者数 - 65,000 人 出展社数 - 2,600 社 (2017 年実績)
ビューティワールド・ミドルイースト (Beautyworld Middle East)	● 毎年 4 月に開催されている、地域随一の美容・ウェルネス関係の展示会。香水、ヘアケア、スキンケア商品といった化粧品から関連機器・サービスまで対象。併設のセミナーではトレンドや研究開発の発表も行われる。	来場者数 - 42,000 人 出展社数 - 1,600 社 (2017 年実績)

(出所：各展示会公式サイト等より作成)

以 上

ドバイ首長国の概況とビジネス機会（2019年3月作成）

UAEプラットフォーム・コーディネーター：ksn Research & Consulting, GEN Events LLC
日本貿易振興機構（ジェトロ）ドバイ事務所
35th Floor, #3503 - #3506, The One Tower, Barsha Heights, TECOM, Dubai, U.A.E.

【おことわり】本資料は「UAE 中小企業海外展開現地支援プラットフォーム事業」の一環として作成したものです。提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご利用下さい。ジェトロではできるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本資料で提供した内容に関連して不利益等を被るような事態が生じたとしても、一切の責任を負いかねますので、予めご了承下さい。

Copyright © 2019 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

JETRO

別紙：ドバイの主要なショッピングモール等消費市場

＜ドバイ北部＞

名称	概要
ドバイ・モール (Dubai Mall)	548,127 平米、1300 店舗以上、2008 年オープン。現在でも世界最大規模の大きさと来場者数を誇るうえで近年大規模な拡張工事が進行中。世界最大の噴水ショー、水族館、アイススケートリンク、キッザニア、VR パークなどの施設を擁し、他のモールと比較してエンターテイメント性が非常に高い。カフェ・レストラン数は 200 を超える。客層は主に観光客ならびに在ドバイ中所得層から高級層のレンジ。同モールを中心に「ダウンタウン・ドバイ」というコミュニティが開発されており、ブルジュ・ハリファをはじめとした超高層ビルや高級ホテル・レジデンス月林立、その全体の開発をドバイ最大手ディベロッパーであるエマール社（EMAAR）が手掛けている。
ドバイ・フェスティバル・シティ (Dubai Festival City)	185,806 平米、500 店舗、2007 年オープン。UAE にて数多くの日系ブランドの代理店をしているドバイ大手財閥マジッド・アル・フタイム・グループが経営。ドバイ・クリークの奥側に位置するウォーターフロントの大型商業施設。クリークに面して設置されているコミュニティパークでは、花火やレーザーショーなども含めたイベントが多く開催され、エンターテイメント性も高い。IKEA や大型ホームセンターの ACE 等もあり、現地居住者かつ中所得者層以上の客層がメインとなっている。
シティセンター・デイラ (City Centre Deira)	123,028 平米、370 店舗、1995 年オープン。現在では庶民的なモールだが、ドバイ最初の大型商業施設としてオープンし、モールがエンターテイメントの中心という方向性を打ち出した画期的な存在。ドバイ大手財閥マジッド・アル・フタイムが経営。近年、大型な改装を完了した。
シティセンター・ミルディフ (City Centre Mirdif)	196,000 平米、430 店舗、2010 年オープン。マジッド・アル・フタイムが経営。北部首長国につながる高速道路に面しており、他の首長国からの買い物客も多い。レジャー＆エンターテイメント設備が大変充実している。UAE 自国民が多く居住しているエリアのため、ローカル客が多く、その他のアラブ系住民にも人気のモール。
シティ・ウォーク (City Walk)	全体 929,030 平米、商業施設だけでなく、レジデンスなどもありミニタウンの様相。2013 年にフェーズ 1 が、2016 年にフェーズ 2 がオープンした、大手ディベロッパー・メラース社(Meraas)のフラッグシッププロジェクト。野外施設と室内施設を両立させ、気候の良い冬場にも、極めて蒸し暑い夏場でも楽しめる設計になっている。ショッピングだけでなく、レストランやエンターテイメントを楽しめる。感度の高いショップが多く、トレンドの発信地となっている。客層は中所得層以上がメインで、UAE 人が多く居住する高級エリアであるジュメイラからもアクセスが良く、ローカル客にも人気。
ラ・メール (La Mer)	1,240,000 平米、2017 年に第一区がオープンした、メラース社が手掛けるビーチフロントの開発地域。2.5km 続く海岸線にウォーターパークやエンターテイメント施設、商業店舗のほか数多くのレストラン＆カフェが立ち並ぶ。一部のエリアでは、アルコールライセンスを所有しているレストランもある。昨今、同施設内に住宅施設の開発も始まることが発表された。客層は、中所得・高所得層がメイン。

Copyright © 2019 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

JETRO

別紙：ドバイの主要なショッピングモール等消費市場

＜ドバイ南部・内陸部＞

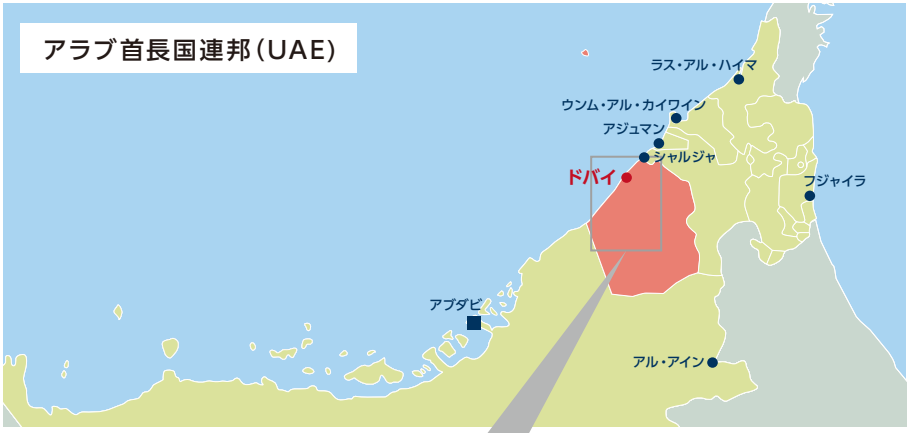
名称	概要
モール・オブ・ジ・エミレーツ (Mall of the Emirates)	233,467 平米、630 店舗、2005 年オープン。中東諸国に数多くのモールを展開するドバイ大手財閥マジッド・アル・フタイムが経営。中東初で世界最大の室内スキー場がモール内に建設されている。ドバイの文化や芸術の普及に努めているドバイ・コミュニティ・シアター&アートセンター等も入居する。客層は観光客とドバイに在住する中所得層以上、大型の量販家具店・家電店等もありファミリー層が多い。
イブン・バットゥータ・モール (Ibn Battuta Mall)	518,398 平米, 400 店舗、2005 年オープン。新たな大型拡張工事も行われている。中世のムスリム旅行家イブン・バットゥータの足跡を辿る 6 つの国のテーマからなる大型商業施設。ドバイ大手土地開発会社の一つであるナキールにより経営されている。高級ブランドよりは、中級・庶民的なブランドのテナントが多く入居しており、ドバイ在住のファミリー客層が多い。
ドバイ・マリーナ・モール (Dubai Marina Mall)	36,232 平米、140 店舗、2008 年オープンの中規模なモール。ドバイ・モールと同じ最大手エマールが経営。主に欧米系を中心とした高所得外国人層の居住地としても人気の高いマリーナ・エリアにあり、地域のコミュニティーセンターとしても機能する。風光明媚な世界最大規模の人口マリーナの周囲には数多くのホテルが立ち並んでおり、外国人観光客も多く訪れる。
スーク・マディナ・ジュメイラ (Souk Madinat Jumeirah)	2004 年にオープン。高級リゾートホテルを経営するジュメイラ・グループの商業施設、「マディナ・ジュメイラ」の中にあるショーピングアーケード。アラブ古来のスークをイメージした作りで、カーペットやアンティーク風小物などのお土産品、アートショップまた化粧品や貴金属店などが軒を連ねる。また、酒類を扱えるライセンス持ったレストランが多数あり、クラブやバーなどでナイトライフが楽しめる。内部にある劇場では世界中のアーティストが演奏しており、アートや音楽などの発信にも力を入れている。昨今、隣接地の大規模なレジデンス開発が発表された。
ザ・ビーチ (The Beach)	27,870 平米のビーチの正面に、レストラン及び店舗などが立ち並ぶ商業施設。ドバイ首長自ら筆頭株主となり、最先端の市街開発を進めているメラース社により経営、開発が行われている。無料で海水浴が楽しめるビーチがあり、ジョギングコースや屋外ジム施設も併設されている。旅行客や中所得層以上の外国人の姿がよく見られる。
アウトレット・モール (Outlet Mall)	66,977 平米、240 店舗、2007 年に中東初のアウトレット・モールとしてオープン。アル・アヒル・ホールディング(Al Ahil Holding)により、開発及び経営がされている。市街地から 20 分ほど内陸に車を走らせた郊外に立地しており、中級・庶民的なブランドのテナントが多く、アウトレット価格を求めて居住者が多く訪れる。
アウトレット・ヴィレッジ (The Outlet Village)	23,225 平米、350 店舗。2016 年にフェーズ 1 がオープンしたアウトレット。メラースにより経営・開発されており、現在、278,709 平米の大型拡張工事を進めている。アブダビとの境に近く、ドバイ市内からは少々距離があるが、観光客などが大型観光バスに乗って訪れている。購入できるブランドも、中級から高級と幅広い。

Copyright © 2019 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.

ドバイ首長国

基本情報

首長家 …… マクトゥーム家
面　積 …… 3,885㎢
名目GDP …… 920億USD (2014)
人　口 …… 270万人 (2016)
自国民人口 …… 17万人 (2010)



Copyright © 2019 Japan External Trade Organization (JETRO). All right reserved.